

## ● 最優秀賞

# 生徒が確実に英語を読める指導 ～毎回の音読・暗唱活動を通して～

愛知県西加茂郡三好町立北中学校 たかぎ ゆか  
高木由香

## 1 主題設定の理由

英語科に求められる技能とは、「聞く・話す・読む・書く」の4技能である。近年、国際化が進み、英語でのコミュニケーション能力が問われている。しかし、中学生にとって自分の考えを英語で表現するのは、簡単ではない。自分が言いたいことをまとめた長さの表現で言えるようになるには、基本表現を正しく身につけることが近道である。つまり、基本表現や文章を暗唱し、それを自分のことばにするのである。また、英語が全くわからないと嘆く生徒は、既に英単語や英文を読む段階でつまずき、読めないもどかしさを感じている。単語の読み方がわからなければ、その綴りを書けるようにならないだろう。

penをピーイーエヌとは読まない。音と綴りの関係を理解し、ペンと読めて、単語が書けるようになる。毎時間覚えるべき新出単語に出会いながら、読めないまま単語を蓄積している生徒もいるはずだ。今までの授業を振り返ると、時間の制限や教師1人対40人という個別に対応するのが難しい問題もあり、生徒一人ひとりが英文を正確に読めているか確認することがなかなかできなかった。英語を確実に「読める」という基礎・基本の学習を徹底して行う必要性を感じる。

そこで本実践では、音読と暗唱指導を通して、生徒が確実に英文が「読める」指導を進めていく。そして、暗唱を生かし、自らの考えを発信できる表現力をもった生徒の育成をめざしたい。暗唱活動が生徒の英語力を高め、

積極的に英語を話すことにつながると考え、研究主題を「生徒が確実に英語を読める指導～毎回の音読・暗唱活動を通して～」に設定した。

## 2 研究の仮説

研究主題「生徒が確実に英語を読める指導～毎回の音読・暗唱活動を通して～」に迫るために、次のような仮説を立てた。

仮説ア 個人、ペアの暗唱活動では、教科書の本文を暗唱し発表することに継続して取り組むことで、英語を話すことに意欲的になるだろう。(コミュニケーションに対する興味・関心・意欲を高める場)

仮説イ 教科書の英文を暗唱し発表できるようにするために、音読の方法を工夫すれば、語彙や内容への理解を深めることができるだろう。

(知識・理解を高める場)

仮説ウ 教科書の暗唱を応用できれば、自分の気持ちや考えをはっきり伝え、さらに相手との対話を広げることができるだろう。(表現力を高める場)

## 3 研究の方法

### (1)生徒の実態

定期テストを終えた時の生徒の感想欄には、以下のような文面が見られた。

- ・テストで点数がとれるようになりたい。
- ・英語は苦手だ、難しい。
- ・長文が読めずに、わからない。

一方、言語活動や英語のゲームをした時の感想欄には、

- ・英語が話せるようになりたい。
- ・ゲームは楽しい。

という文面が見られた。今までも、基本本文の導入にゲームの要素をとり入れてきたが、英語が苦手な生徒は消極的な態度のままであり、単発的な活動になりがちであった。そこで、全員が参加できる活動、毎回できる活動に取り組みたい。そして、音読を苦手とする生徒や英語を得意とする生徒たちの音読に対する意識の変化をとらえたい。

## (2)研究の手だて

音読・暗唱活動に必要な見直しのポイントは、次の3つとする。

- ①生徒が教科書の英文を確実に読めるようになること
- ②読めたことを評価すること
- ③毎回継続して続けていくこと

研究仮説を実証するための具体的な手だてを次のように考えた。

手だて① 教科書の区切りのよい、約1ページ分の学習を終えたら、暗唱を課題として発表する機会を設ける。

(コミュニケーションに対する興味・関心・意欲を高める場)

手だて② 教科書の本文の語彙を習得し理解を深めるため、音読練習に重点を置き、学習内容の定着を図る。

(知識・理解を高める場)

手だて③ 暗唱を発展させ、自分の立場や考えを述べる英文をつくり、相手との対話を広げる。

(表現力を高める場)

## 4 研究実践

### (1)暗唱活動の取り組み

今年度、3年生の英語科学習では、常時活動として暗唱活動に励んでいる。教科書の区切りのよい、約1ページ分の内容を学習したら、次時の10分間はそのページの暗唱を発表する時間とした。

#### ア シートの活用

表1は、暗唱確認に用いる暗唱シートである。課題となる単元のページが記入された欄に、教師またはその時の採点者が暗唱への合格サインを書いたり、スタンプを押すようになっている。

この暗唱活動に取り組むことを生徒に話した時の反応は、あまり良くなかった。暗唱が精神的に重荷と感じている様子が伝わってきた。特に生徒Aは、どうせやれないという思いでいた。英語を苦手とする生徒ほど暗唱活動に意欲的ではなかった。

## RECITATION

CLASS 2 NUMBER 7 NAME

Warm up (p.2)	◎	U4 Starting Out
Warm up (p.3)	☺	U4 Dialog
U1 Starting Out	☺	U4 Reading for Communication (p.46)
U1 Dialog	◎	U4 Reading for Communication (p.47)
U1 Reading for Communication (p.6)	☺	U5 Starting Out
U1 Reading for Communication (p.7)	☺	U5 Dialog
U2 Starting Out	☺	U5 Reading for Communication (p.56)
U2 Dialog	☺	U5 Reading for Communication (p.57)
U2 Reading for Communication (p.16)	☺	U6 Starting Out
U2 Reading for Communication (p.17)	!	U6 Dialog
U3 Starting Out	丸	U6 Reading for Communication (p.68)
U3 Dialog	OK	U6 Reading for Communication (p.69)
U3 Reading for Communication (p.28)	!	Reading Plus 2 (p.76)
U3 Reading for Communication (p.29)	☺	Reading Plus 2 (p.77)
Reading Plus 1 (p.36)		Reading Plus 2 (p.78)
Reading Plus 1 (p.37)		Reading Plus 2 (p.79)
Reading Plus 1 (p.38)		Reading Plus 2 (p.80)
Reading Plus 1 (p.39)		Reading Plus 2 (p.81)

●表1/暗唱確認に用いる暗唱シート

## イ 暗唱部分

暗唱は、文章の長さや題材を考えて、個人ですべての文章を暗唱する時とペアを組み2人で内容を分けて暗唱をする時がある。

### ① Starting Out (資料2)

新出文法や基本文の理解が主目標であり、記述文である。生徒が各自で新出文法や基本文を確実に理解するためにも、個人暗唱を課した。

### ② Dialog (資料3)

本文は、すべて対話文である。短い対話文の中に新出文法が繰り返し現れるようになっていく。ペアで役割を分担して演じることで、対話をする楽しさを味わわせるとともに、自分の立場や考えを含めた対話を続けられるようにしたい。

Unit

1

Let's Learn Braille

マークは図書館で下のようなポスターを見つけました。

Starting Out

見たい語句

braille [breɪl]  
written [rɪt] ← write  
volunteer(s) [vɒlənˈtiə(r)]

Can You Read This?

Braille is used by many people.  
Braille is written in many places.  
Would you like to learn braille?

Volunteers are needed.

●資料2 / Starting Out

### ③ Reading for communication (資料4)

すべて記述文で題材内容に重点を置いたもので、情報や考えさせる要素が盛り込まれている。そのため、文章も長く前半と後半部分にわけ、2人ペアで取り組むことにした。

資料4の「 」部分が生徒一人に課す暗唱の長さである。1 ページ分の英文を2人で分ける。

ペアの組み合わせは、席順が隣同士であったり前後であったり、または斜めであったりと教師が指示を出す。毎回ペアの相手が変わるほうが新鮮で望ましいと考えたからである。

## ウ 発表形態

発表は、以下のような形態で行った。

### ① 全体の前で発表

発表者は、教師と生徒の前で発表をする。

Dialog

Mark: When was braille invented?

Ms. Green: In 1829. It was invented by a Frenchman, Louis Braille.

Mark: So it's called braille.

Ms. Green: That's right.

見たい語句

invented [ɪnven(t)d]  
Frenchman [frentʃmən]  
1829 = eighteen twenty-nine

その他の語句

Louis Braille [lu:ɪ breɪl]  
ルイ・ブライユ [人名]

●対話をかえてみよう

●Halley's Comet  
ハレー彗星

●found

●1882

●Edmund Halley  
エドモンド・ハレー

●資料3 / Dialog

マークは点字について、本でさらに調べます。

Reading for Communication

図や絵を使って説明しよう

マークは点字について、本でさらに調べます。

Starting Out

見たい語句

introduce(d) [ɪntrɒdʒ(ə)s]  
era [ɪrə, ˈeɪrə]  
system [sɪstəm]  
dot(s) [dɒt(s)]  
figure [fɪɡjə]  
example [ɪɡzæmpəl]  
for example

Braille in Japan

日本語の点字はどのようなくみになっているのだろうか。

Braille was introduced to Japan during the Meiji era. The braille system uses six dots. Years later a new system was made for kana.]

In this system, six dots are also used. Look at Figure 1. The braille in Figure 2 says ku, for example. Can you write se? ]

●資料4 / Reading for Communication

点字教室に参加しはじめたマークが、自分の体験を発表します。

最近の体験を発表しよう

マークにとって点字を学ぶのはやさしいだろうか。

Recently I began studying braille. I want to use it in volunteer work. Now I can write it, but I can't read it with my fingers yet. ]

Braille is very small. It makes reading difficult. I'll pass around an example. Feel it.

My braille class is held every Saturday. If you're interested, why don't you join us? ]

見たい語句

recently [rɪsntli]  
finger(s) [fɪŋgə(r)]  
yet [jet]  
pass [pɑ:s]  
held [held]  
→ hold [hould]  
interested [ɪntərəstɪd]  
join [dʒɔɪn]  
pass around

特にペア活動でDialogの時に用いる発表形態である。

この発表の目的は、人前で英語を話すことに自信をもってほしいという願いがあった。また、仲間の英語に耳を傾けることで、自分とは異なる考えや共感する表現などを聞きとり、自分の会話力、表現力をさらに高められるからである。

生徒は、全体の前で発表するのに初めは戸惑っていた。しかし、英語を話すことが当たり前であるという状況が設定されているので、楽しんでやろうと堂々と会話をしていた。初めて聞く、仲間の流暢な英語やユーモアのある表現に感嘆の声や温かい雰囲気醸し出され、発言者も聞き手も学習の雰囲気をより良くしていた。

### ② 生徒同士で発表し、聞きあう。

個人対個人、ペア対ペアというように、生徒同士で発表し、互いの暗唱を聞く機会をもたせた。

時間に制限がある時のみ、一斉に生徒同士で発表し、暗唱できているかを確認するようにした。暗唱活動は、毎回やることに意味があると考えたので、生徒が聞き手になることもあった。暗唱がしっかりできているかを温かく見守ろうとする生徒の姿と、それに応えようとする発表者の姿に、生徒が生徒の良さを引き出しているように思った。しかし、正確に音読ができているかを知るには、教師が聞き手となった方が気づくことが多い。例えば、itとitsの発音の違いをまちがえやすいが、生徒は気づかずに、何となく正しいと思って聞いてしまう心配がある。

### ③ 教師の前で発表

Reading for communicationのペア発表では、この形態をとっている。教師もティーム・ティーチングで2人なので、20組のペアを半分ずつ聞き、英文を読めない生徒がいなかなを確認し、個に応じた指導ができる。一人ひとりの発音やイントネーションの確認がで



●写真1/教師の前で発表

きるとともに、注意すべき点を生徒を通じて知ることができる。

暗唱活動の発表形態に合わせて、発表の順番を待つ生徒には、まとめプリントや教科書の補助教材であるDaily Englishをやるように指示を出している。そこで、暗唱した単語や基本文を書いて復習する時間にする。

### 工 評価

全員が参加できる活動、毎回できる活動を実践していくための評価を考えた。そこで、

- ・単語の読み方が正しい。
- ・暗唱ができている。

この2点とした。また、ペア暗唱では、2人で約1ページ分の文章を暗唱するため、双方が支えあって教えあって発表できたら、合格とする。つまり、個人で全文を覚えていれば、教えることもできる。一方だけができて合格ではない。バトンをつなぐように発表できて合格である。正しい発音で暗唱していることに重点を置き、それができたら生徒に自信をもたせ、暗唱への意欲をさらに高めようとした。全ペアが教師の前で発表したら、次は何人かのペアに全体の前で発表を促すこともあった。すると、一度教師の前で自分の発音や読み方を認められているため、自信をもって発表できた。

## (2)音読指導

暗唱活動の前に、必要なのが「読む」指導である。この「読む」ことの技能を高めるために、音読練習の指導に力を入れて、生徒一人ひとりが確実に英語を読めるようにしていく。新出単語と本文の英語を読めるようにするためには、導入の仕方や指導法も工夫しなければならない。

初めに、生徒にピクチャーカードの絵を見せながら、音声（本文）を聞かせ、内容を推測させる。そして、絵が表す単語を示して、音声と単語を結びつけて、聞かせる。視覚と聴覚を使うことで、題材に興味をもたせるのに適していると考えた。

### ア 新出単語の音読練習

#### ① 音の確認

フラッシュカードを用いて教師がアクセントや読み方に気をつけて単語をゆっくり大き

な声で読む。生徒は、文字を見ながら教師の後に繰り返し、各単語を3回～4回繰り返して発音する。

#### ② 意味の確認

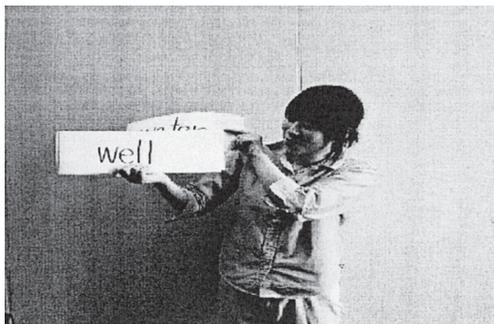
各単語の意味を確認する。その後、教師の後につづいて英語を2回くり返す。その時に、ピクチャーカードを用いて、絵が表す単語を結びつけて練習した。

#### ③ 個人で発音できるか確認

発音記号に注意をして、各単語を2回ずつ読む練習をする。

覚えたい語句
pump(ing) [pʌmp(ɪŋ)]
water [wɑ:tər, wɔ:tər]
well [wel]
cow [kau]
quick [kwɪk]

●資料5/教科書の「覚えたい語句」



●写真2/フラッシュカードを用いて



●写真3/絵と単語を結びつけて

#### ④ 全体での確認

教師は、フラッシュカードを回すだけで、生徒だけで単語を発音する。アクセントなどが気になれば指摘して、もう一度発音する。

#### ⑤ 一人ひとりに確認

教師がフラッシュカードを回して、順番に生徒に当てて読ませる。

#### ⑥ 日本語→英語

日本語を英語に直せるように、教師の後に続いて単語を発音する。一単語につき、2回ほど繰り返して練習した後、生徒全体での確認と個人に当てて確認をする。

1年生の時から続けていることだが、フラッシュカードを用いて単語の音読練習をしている。前方を向いた方が声も出しやすく、目（単語の綴りを見る）と耳（単語の音声を聞く）口（単語の綴りを見て、音声を聞いて発音をまねる）を使って練習ができる。その単語を次から次へと瞬時に見せるので、生徒の

脳に記憶されやすい。一単語を読むのに、教師が丁寧に指導していることは、必ず生徒に伝わる。特に、一人ずつ単語を読んでいる時に、学級全体に緊張感と集中力が生まれる。そして、生徒の発音に対して「good」や「beautiful」というように賞賛をしている。その積み重ねが自信になると考えるからだ。照れ屋の生徒も単語を読めた時の表情は何とも嬉しそうである。

#### イ 本文の音読練習

本文の音読練習では、約1ページ分の既習内容を生徒が10回は読むように指導している。最初から長い文章を読むのは難しいので、区切りを入れて読みやすくしている。

##### ① スラッシュを引く

本文を読む上で、スラッシュ（斜線）を引いて読む。ピリオドはもちろんのこと、カンマや前置詞の前などの文の区切れとなる箇所に線を引いて区切る。特に、なかなか英文が読めない生徒ほど、正しい区切りをつけて読ませたい。

##### ② 教師の範読の後に繰り返して読む

スラッシュを引いた部分を区切りに、教師の後に繰り返して読む。2回ほど区切りで読んだら、次は一文単位で読む。

##### ③ 2分間の音読タイム

この音読タイムとは、個人練習の時間である。習得した単語や教師の範読を生かして、個人でどれだけ英文を正しく、なめらかに読めるかに重点を置く。そして、この時間に、個別指導に心がけている。口が動いていない生徒はいないか、読み方がわからない生徒はいないか見て回り、生徒の質問に答える。音読の効果を言い続けてきたことや暗唱活動もあるため、どの生徒もできるだけ滑らかに読もうとしている。生徒Aも、以前は教科書を自分から開くこともなかったが、暗唱への発展を考え、カナをふりながらも読もうとしている。

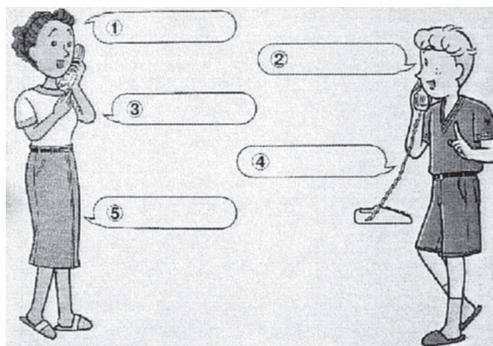
##### ④ モデル音声と同時読み

教科書CDのモデル音声を耳で聞きながら、同時に口を動かして、英語を見て読む。これを2回繰り返す。これにより、耳から聞こえる音声やイントネーションをまねることができ、自分の発音との違いを知る。だからこそ、さらに上手になろうという気持ちが芽生える。モデルの音声の速さについてこうとしていくうちに、生徒が英文を滑らかに読めるようになった。この練習は、「読む」練習でもあるが、「話す」練習にもなる。

##### ⑤ Read and Look up

自分の考えを英語で表現するのは、なかなか難しい。自分が言いたいことをまとめた長さの表現で言えるように、基本表現を正しく身につけていくことが必要である。読んだ後で上を向いてその内容を繰り返してみる方法である。生徒は途中でつまっても手本である教科書の文字がすぐ前があるので、何度でも見直しては、最後にスラスラ言えるようになった。

##### ⑥ 基本本文の一人読み



●資料6／基本本文の学習カード

“May I speak to Demi, please?”という電話に使う基本本文を学習したら、その表現を定着させるために、空欄に入る表現を全体で繰り返して読む練習をしたあと、空欄に適する文を一人ずつ当てて発表させた。何度も口頭で練習したため、どういう順序で電話の会話が進行するかをつかむことができた。

# Let's Try Read For Communication (p.6)

## Practice

Braille in Japan

Braille ( is / was / are / were ) introduced to Japan during the Meiji era. The braille system ( use / used / uses / using ) six dots. ( Year / Years ) later, a new system ( is / was / are / were ) made for kana. ( On / In / To ) this system, ( four / five / six ) dots are also ( use / uses / used / using ). Look at Figure 1. The braille in Figure 2 ( say / says / said / saying ) ku, for example. ( Can / Could / Would ) you write se?

## Practice

Recently I ( begin / began ) studying braille. I want ( to use / using ) it in volunteer work. Now I ( can / can't ) write it, but I ( can / can't ) read it with my figures yet. Braille is very small. It ( make / makes / made ) reading difficult. ( I / I'm / I'll ) pass ( around / round ) an example. Feel it. My braille class ( is / am / are ) ( hold / held ) every ( Saturday / Saturdays ). If you're ( interesting / interested ), ( what / when / why ) don't you join us?

Perfect !!

### ●資料7 / まとめプリント

#### ⑦ まとめプリント

いくつかのポイントが問題になったプリント(資料7)を授業の最後に配って、答えを確認しながらまとめを完成させる。まとめプリントは、何度も読みを繰り返したからこそ、できるものにした。綴りが書けなくても、まずは音読の成果が紙面上にも表れていることを知らせたかった。確認テストのように取り組んだ。スペルが書けない生徒も、音読の成果が出て選択形式で問題を解けることも感じとれた。

このプリントに対する生徒の感想には、「暗唱がけっこういいことがわかった」「改めて文章を見ると、大事なポイントに気づく」という感想が書かれていた。また生徒Aは、「暗唱したから何となくわかった」という達成感を味わった気持ちを述べていた。

#### (3)暗唱文から自作対話文へ

##### ア チャットをしよう

暗唱から次に発展させたいことは、自分のことを相手に伝える表現力を身につけさせることである。音読→暗唱→自分の考えを述べるというステップを踏んだ。この題材は、お互いに興味があるものを伝え合うという対話である。資料8は、生徒の自作対話文である。

本文の暗唱はもう簡単だと自信をもった生徒は、それを応用させて自分の立場で文章をつくるようになった。少しずつでいいから変

チャットをしよう

A: I like novels very much. How about you?
B: I like it, too. Who is your favorite writer?
A: Akagawa Jirou. <sup>is</sup> How about you?
B: I like Natsume Soseki. Did you read his novels?
A: No, I didn't.
B: Why don't you read one of his novels?
A: I'll try.

### ●資料8 / 生徒の自作対話文

えていく方が楽しい。ペアで、互いにどんな会話をつくったらよいかをどんどん内容の幅を広げて考えていけるようになっていくことがわかった。そして、その対話文の発表を聞いて、友達についての新しい一面も知ることができた。

#### イ 私はレポーター

本題材は、リサイクル活動の意義や必要性について学習する。レポーターがリサイクルマーケットの来場者にインタビューをするという設定である。レポーター役と来場者役をつくり、対話を発表をする。しかし、自分がその場にいるという設定にするため、品物を代えて演じなければならない。



●写真4／私はレポーター

生徒B：Let's take a walk among the people.  
Excuse me. What do you have there?

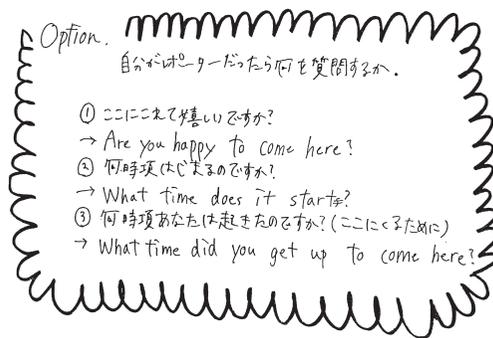
生徒C：Yes. Some old comic books.  
They were really cheap.

生徒B：Oh! O.K Are you going to buy anything else?

生徒C：Yes, an electric fan. I've wanted one for a long time .

生徒B：Well, good luck .  
This is Kita Taro at the Miyoshi Recycling Market.

●資料9／生徒B(レポーター役)と生徒C(来場者)の会話



#### ●資料10／生徒Dの質問

発表の設定では、雰囲気を大切にしようとレポーターはマイクを持つことにした。マイクをもつだけで、楽しくなるような雰囲気の中で全員が発表をした。

生徒の大きな変容として見られたのは、資料9が示すようにその場に適したことばを用いた点である。暗唱は、その文章を覚えて発表するのだが、実際の対話は、やはりアドリブがあったり、ちょっとした一言が出てくるものである。

二重線部は、生徒の立場でことばが述べられている。□内の語は、覚えたい新出連語であり、特に暗唱すべき部分である。

全体の発表を聞いても、自分の立場で品物は生徒それぞれ違う。季節的なものである扇風機 (an electric fan) が出てくるなど、会話の幅を広げている。(そして、生徒Cも生徒Dも単に暗唱部分だけを発表しているのではなく、つまった時もYesやOh! O.K.などのことばが自然と口から出ている。こんなちょっとしたことから、暗唱から実際のコミュニケーションへになっている過程の表れだと考えられる。

また、生徒Dは、自分がレポーターだったら、どんなことを質問するかを考えている。

暗唱活動を続けてきたことで、話すことに自信を持てるようになった。そして、自分のことばで自分の思いこめて、対話を広げたいという気持ちが感じられる。このような「自分が～だったら」という場面を設定して考え

ることで、さらに語彙力も増えていくのではないだろうか。

## 5 研究の成果と今後の課題

仮説アを検証するために、コミュニケーションに対する興味・関心・意欲を高める場として、個人・ペアでの暗唱活動を取り入れた。初めての暗唱活動に戸惑いをみせていた生徒たちも、発表の時にはなんとか合格できるように、休み時間中に何度も発音したり読んだりする練習が見られた。ペアでの発表では、バトンを受け継ぐように前半から後半へと暗唱発表しなければ合格にはならない。片方がつまずいても、もう片方の生徒が教えて暗唱を続けることができればよいのである。だからこそ、相手の発表にもしっかり耳を傾けるし、協力しようとする。同性のペア、異性のペアのどちらで組ませても、相手と自分のために合格しようと助け合って支え合って取り組む姿がほほえましい。今まで英語を読むことを嫌がっていたはずの生徒が積極的に読むようになった。必ず教科書の英文を読めるようにすることを、それだけは成し遂げようとしているのが、生徒のひたむきな表情や声からわかる。その取り組みが暗唱合格となり認められ、自分も認めることができるので、もっと話したい、話せるようになりたいと積極的な態度が育っていると考える。

仮説イを検証するために、音読のやり方を工夫した。音読・暗唱活動に必要な見直しのポイントは、①教科書の英文を徹底的に読めるようにすること②読めたことを評価すること③継続して続けていくことの3つとした。今までを振り返ると、新出文法を組み込んだ言語活動やゲームを単元の終わりにやるようにしてきた。しかし、そのゲームも英語の理解度の差から、できる生徒とできない生徒に分かれてしまうこともあった。英語が日常生活に用いられなくても、テストを含め紙面上

で用いられる必要性は高い。そこで、音読練習の時から暗唱できるような指導をしていけば、語彙や内容についての理解も早い。「読む」ことの技能が「書く」ことへの技能にもつながって、単語や文章を書く基礎力もつくだろう。今後も、ただ単語を書けるようにという指導ではなく、読み方に重点を置いてから書く指導へとつなげたい。

仮説ウを検証するために、教科書の内容を発展させ、自分の立場や考えを述べる英文をつくり、相手との会話を広げる場を設けた。英語学習のサイクルは、興味・関心はもちろん必要だが、下記のような段階を踏みながら向上していくと考えられる。

- ① 音声を聞く
- ② 単語や文の読み方を知る
- ③ 英語が読め、語彙を習得する。
- ④ 基本文例や表現をまねる
- ⑤ 基本文例を応用させ、自分の意見を伝える

①～③の段階では、できるだけ多くの語彙を習得して、自分の語彙力増やすことである。そして、④の段階からは、それを応用して自分の感情や考えを述べていくと考える。

今回の実践では、暗唱活動を通して、さらに自分の考えを述べる生徒の姿が見られた。仲間と会話をつくり出す中で、新しい語彙を知ったり、仲間についての情報を見つけることができる。自分の考えをはっきり伝える表現力と相手と気持ちを通い合わせ、より深い人間関係を築こうとするコミュニケーション能力が備わってきたように考える。

今後も、この暗唱活動に継続して取り組みながら、生徒のコミュニケーション能力をさらに高める指導法を探っていきたい。また、「読む」ことが、他の3技能へつながるようにしていきたい。